



No. 149

がんは怖い病気ですか？

怖い理由のトップは死に至る病気だから

がんは怖い！というイメージが定着しているようですが、実際にがんに対する印象・認識についてはどのようなもののでしょうか？

内閣府が行った「がん対策に関する世論調査」(平成25年1月調査)から、その実態を見てみましょう。

がんについてどのような印象を持っているか聞くと、「こわいと思わない」とする者の割合が22.4% (「こわいと思わない」12.1% + 「どちらかといえばこわいと思わない」10.2%)、「こわいと思う」とする者の割合が76.7% (「どちらかといえばこわいと思う」33.4% + 「こわいと思う」43.3%)でした。

性別では、「こわいと思わない」とする者の割合は男性で、「こわいと思う」とする者の割合は女性で、それぞれ高くなっています。

年齢別に見ると、「こわいと思わない」とする者の割合は70歳以上で、「こ

わいと思う」とする者の割合は30歳代、40歳代で、それぞれ高くなっています

それでは、がんをこわいと思う理由を見ると、がんに対する印象について、「どちらかといえばこわいと思う」「こわいと思う」と答えた者(1,444人)に、その理由を聞いたところ、「がんで死に至る場合があるから」を挙げた者の割合が75.1%と最も高く、以下、「がんそのものや治療により、痛みなどの症状が出

る場合があるから」(50.5%)、「がんの治療費が高額になる場合があるから」(46.5%)、「がんに対する治療や療養には、家族や親しい友人などの協力が必要な場合があるから」(36.4%)などの順となっています。

性別では、「がんそのものや治療により、痛みなどの症状が出る場合があるから」「がんの治療費が高額になる場合があるから」を挙げた者の割合は女性で高くなっています。

がんをこわいと思う理由の認識

